

呼吸器インターベンションセンターの 設立にあたって



■呼吸器インターベンションセンター長 佐藤 賢

はじめに

皆様は“Interventional Pulmonology”という言葉をご存じでしょうか。この言葉の定義や概念は2002年のATS/ERSステートメント内に記載されており、要約すると「診断的、治療的行為のいずれも含み、単に軟性気管支鏡の範疇にとどまらず（硬性気管支鏡、胸腔鏡や体外からの穿刺等も含む）適応される手技であり、標準的な呼吸器学のトレーニングプログラムに加えてその手技を習得する必要がある、“art and science of medicine”」となります。我々の施設では以前より、呼吸器領域における診断の分野においては通常の呼吸器内視鏡での観察や生検などに加えて、凍結生検やEBUS-TBNA、EUS-B-FNAなどの超音波気管支鏡を用いた組織採取、軟性鏡治療としては喘息に対するサーモプラスティ、EWS留置、COPDに対するバルブ治療、異物除去、金属ステント留置など、難易度が高く他の施設では施行できない多くの呼吸器インターベンションを行ってまいりました。さらには硬性気管支鏡を用いた気管内腫瘍の切除や気道狭窄に対するステント留置は10年前から症例を重ね現在では年間30例程度の症例を経験しております。以前より麻酔科、放射線科、循環器内科、呼吸器外科の先生にご協力いただき、気道出血に対する術前の気管支動脈塞栓術、術中の麻酔管理、ECMOスタンバイ、治療方針の相談や不測の事態が起きた時のバックア

ップなど、他科の先生や他職種のコメディカルの方々のおかげで、きわめてハイリスクな手技にもかかわらず大きな事故なく安全に手技、手術を行ってまいりました。

引き続き技術や安全性の向上を目指し、我々はこの度2025年2月より、呼吸器インターベンションセンターを設立いたしました。麻酔科、放射線科、循環器内科、呼吸器外科の先生にも名前を連ねていただき、多くの他職種の方にもご協力いただきながら引き続き安全に手技を施行し、技術の向上を目指し邁進してまいります。

患者さんご紹介

呼吸器インターベンションの対象患者さんは岡山県内はもとより県外からも数多くご紹介いただいております。患者さんのご紹介につきましては、緊急の場合には地域医療連携室を通して呼吸器内科オンコール医、または呼吸器内科スタッフが対応いたします。完全予約制にはなりますが呼吸器インターベンション外来も週2回（火曜、金曜の午前中）行っており、落ち着いておられる患者さんは外来への紹介も可能です。その他メールやお電話での相談も随時受け付けております。インターベンションの適応かどうか判断に迷う症例でも、可能な限り迅速に対応いたしますのでいつでもお気軽にご相談ください。県をまたぐ搬送で救急車の確保が困難な場合、当院の救急車で医師同乗のうえお迎えも可能な場合がありますので、まずはご相談いただけたら幸いです。